

# 平成22年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.11

事務事業名 (予算事業名)	鹿嶋の民話及び市民音頭普及事業 (文化事業)	作成日	H23.8.15
		担当部名	市民協働部
		担当課名	生涯学習課

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(1) 郷土理解教育の推進
個別施策	② 伝統文化の保護と継承

## 2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 幼児期からの郷土の民話の普及が課題でしたが、平成20年度に体系的にまとめた民話集が完成し、幼児期から大人までの幅広い層へ普及活動を行っています。各幼稚園や保育園、小学校へ配布した民話集を活用して、ボランティア団体である鹿嶋語り部の会の協力のもと、普及活動に努め郷土愛の育成を図っていきます。鹿嶋市民音頭は、舞踊連盟の協力のもと各種イベント(体育祭、夏まつり等)において市民全員が踊れる音頭として普及活動に努めます。 市内の郷土かるたは、4種類のかかるたがあり、文化財愛護かるたを筆頭に3地区の郷土かるたを普及するため、各かるた大会等を支援し郷土愛の育成を図ります。
	重要成功要因

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	市民	規模

予算科目コード	会計	01 款	10 項	05 目	01 事業名	鹿嶋の民話及び市民音頭普及事業(文化事業)							
全体計画						21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
						(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)		
投入コスト	事業経費	鹿嶋の民話普及事業						120	60	50	50	50	50
		鹿嶋の民話増刷						0	0	0	0	0	0
		市民音頭普及事業						45	38	30	30	30	30
		郷土かるた大会支援						0	0	0	0	0	0
		合計【1】						165	98	80	80	80	80
財源内訳	国県支出金												
	地方債												
	その他												
	一般財源						165	98	80	80	80	80	
従事職員数	正規職員					0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03		
	その他職員												

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス	○	管理経費	○
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	平成	年度から	平成	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 新しいコミュニティづくりの起爆剤として伝統芸能の復活等、地域のきづなづくりが進められています。学校においても道徳教育や伝統芸能・伝統楽器の取り組みも行われています。

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算執行の視点 30%	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	自主的な市民音頭の普及活動等、各団体の積極的な協力が得られました。民話普及活動1回当たりの経費は減少しました。	A
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はあるか？(他市における同様の事業経費との比較、担当者一人あたりの経費など)	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	民話普及活動は38回(昨年42回)の普及活動を行い、2,712人が聴講しました。市民音頭普及活動は昨年同様3回行いました。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%~90%未満 C：対計画実施率80%未満	民話・市民音頭の普及は、昨年度実績と同程度を予定し事業を実施しました。	A
II 対象者の視点 30%	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客満足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	普及活動実施報告書から参加した方々の反応が見え、子どもたちの楽しさが感じられました。	B
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくらいか？(顧客一人あたりが負担するコストはどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%~10%未満 C：対昨年度比、安い	民話普及は1回に対する経費は45%減少しました。42回→38回、一人あたりのコストは48%減となりました。	A
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける時間はどのくらいか？(顧客一人あたりが要する時間はどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未満 C：対昨年度比、増加	民話の語りの時間、市民音頭の時間の変更はありませんが、民話の数や音頭の実演回数により参加者の時間に変化がありました。	B
III 事業実施過程の視点 30%	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行ったか？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%~20%未満 C：市民参画なし	民話普及は、学校等の要望により派遣を行いました。市民音頭は3回実施し、他団体の要望によりボランティア活動を行いました。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、顧客の平均対応時間、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未満 C：対策年度比、増加	事業実施時間は、幼稚園は30分程度、小学生以上は1時間程度、お祭りは2時間程度行っています。	B
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？(事業委託、民営化、市民参画団体への委譲後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	実績報告書をもとに内容を確認し、事後の活動に活かしました。	B
IV 職員育成の視点 10%	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に関する提案件数の達成率、管理費(義務的経費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%~10%未満 C：業務改善なし	民話の普及に関して、これまで直接依頼は実績報告書として提出を受けていませんが、今年度から全体の普及活動として報告を受けました。	B
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	月2回、3~4時間程度の研修を行っています。	C
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上したか。(資格取得、知識の共有化や結合化件数など)	A：対昨年度比、3件増 B：対昨年度比、1件増 C：対昨年度比、増加なし	勉強会を通して知識の共有化を図っています。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ(最高30点)、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	25.1	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点~23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 民話普及活動は38回(昨年42回)の普及活動を行い、2,712人が聴講しました。鹿嶋市民音頭普及活動は昨年同様、桜まつり、夏まつり、かしまつりの3回行いました。民話普及は、各幼稚園・保育園や小学校へ配布した民話集を活用して、鹿嶋語り部の会の協力のもと普及活動に努めました。また、鹿嶋市民音頭は、舞踊連盟の協力のもと各種イベント(体育祭、夏まつり等)において市民全員が踊れる音頭として普及活動に努めました。さらに、市内の郷土かるたは、文化財愛護かるたを筆頭に3地区の郷土かるたを普及するため、各かるた大会等を支援し郷土愛の育成に努めました。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 「鹿嶋の民話」が完成し普及活動を行っていますが、鹿嶋語り部の会が独自に収集した話の民話化が進んでいます。また、創作民話の制作にも力を入れており、広く市民の皆さんに普及するためにもこれらの資料を整理して追加民話集として編集・発刊するか検討が必要です。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 追加民話集については、鹿嶋語り部の会と連携し検討していきます。				

# 平成22年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.12

事務事業名 (予算事業名)	小・中学校英語活動 (英語指導事業経費)	作成日	H23.8.15
		担当部名	教育委員会
		担当課名	鹿嶋っ子育成課

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2)	国際理解教育の推進
個別施策	①	小中学校での英語教育の充実

## 2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 英語を母国語とする英語指導助手を各小中学校に配置し、日常生活で自ら進んで英語表現ができることを目標として、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は、英語表現に慣れることを重点に、小学校5年生及び6年生は、英語による基本的なコミュニケーション能力を身につけることを重点に、中学校では、小学校から慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力やリーディング力を含む総合的な英語力の向上に努めます。
------	--

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①英語指導助手と児童・生徒が英語を使ってコミュニケーションしようとする必然性の提供 ②英語指導助手との交流による児童・生徒の英会話能力の積極的引き出し ③英語指導助手との交流による異文化への関心と国際理解の深まり ④学校教職員に対する英語研修や効果的な授業実践に関する支援
--------	---

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。			
	対象	小学生及び中学生	規模	5,523人

予算科目コード		会計	01	款	10	項	01	目	04	事業名	英語指導事業経費				
		全体計画			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度					
					(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)					
投入コスト	事業経費	委託料（小学校英語事業）			84,803	79,477	79,043	79,043	79,043	79,043					
		委託料（中学校英語事業）			21,546	21,546	21,546	21,546	21,546	21,546					
		需用費			2,237	1,639	1,764	1,764	1,764	1,764					
		合計【1】			108,586	102,662	102,353	102,353	102,353	102,353	102,353				
	財源内訳	国県支出金													
	地方債														
	その他														
	一般財源			108,586	102,662	102,353	102,353	102,353	102,353	102,353					
従事職員数	正規職員			02	02	02	02	02	02						
	その他職員														

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務		自治事務（義務）	○	自治事務（任意）		市民サービス		管理経費	
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	○	その他	
							平成	年度から	平成	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。  小学校学習指導要領には「指導計画の作成や授業の全体的なマネジメントについては、学級担任や外国語活動を専門に担当する教員が中心となって、外国語活動を進めることが大切であるが、授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーの活用に努めるとともに、外国語が堪能な人々の協力を得るなど、指導体制を充実すること。」と明記してあり、今では多くの自治体で英語指導助手による英語教育を取り入れています。また、本市では、教育特区として小学校1年生から英語活動を実施し、英語によるコミュニケーション力の育成を図っています。さらに、中学校においても話す力・聞く力を重点化した指導を展開し、「コミュニケーション英語」の指導カリキュラムを作成し取り組んでいます。
--------------------------	--

### 3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算執行の視点 30%	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	委託内容等の細部を精査し、コスト削減を行いました。	B
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はあるか？	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	実用英語検定の資格保持者が増加するとともに、小学校では英検5級程度のリスニング力が身に付いた児童が85%を超えています。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%～90%未満 C：対計画実施率80%未満	学校現場・教育委員会・受託者が集まり、教育効果の高い事業計画を立て、PDCAサイクルで年度ごとに見直しながら進めています。	A
II 対象者の視点 30%	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客満足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	わかる授業・楽しい授業についてのアンケート結果では、授業に対して、小学校においては96%中学校においては88%の満足度を得ています。	A
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくらいか？(顧客一人あたりが負担するコストはどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%～10%未満 C：対昨年度比、安い	委託内容等の細部の精査により、児童生徒1人あたりのコストは、前年度比5.2%の減となりました。	B
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける授業時間はどのくらいか？(顧客一人あたりが要する時間はどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比増加率、10%以上 B：対昨年度比増加率、0%～10%未満 C：対昨年度比、削減	教育課程上、英語指導助手による授業時間は前年度と変わりません。	B
III 事業実施過程の視点 30%	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行ったか？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%～20%未満 C：市民参画なし	事業の導入により英語教育がうまくいっていると答えた教職員は全体の96%、また英語教育に不安がないと答えた保護者は全体の73%と、本市の英語教育の必要性が高まっています。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%～10%未満 C：対策年度比、増加	研修会において、各校での英語活動の中で発生した反省点や改善すべき事例等を話し合い、内容充実と情報共有に努めています。	A
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？(事業委託、民営化、市民参画団体への委譲後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	連絡を密に取り合い、学校・教育委員会・受託者による管理体制の確立に努めています。	B
IV 職員育成の視点 10%	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に関する提案件数の達成率、管理費(義務的経費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%～10%未満 C：業務改善なし	学校や教育委員会からの要望に対し、受託会社はほぼ全ての内容を改善しています。今後もより教育効果の高い授業内容の構築に努めます。	B
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、教職員研修を行っているか？(研修時間、研修内容の深化、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	英語教育の充実と指導力向上につながる適切な研修内容を精選し、教職員を対象に市独自の研修会等を開催しています。	A
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上したか。(資格取得、知識の共有化や結合化件数など)	A：対昨年度比、増 B：対昨年度比、微増 C：対昨年度比、増加なし	ねらいに即したより質の高い研修会を設け、教職員の英語指導力と意識の向上に努めています。	A

### 4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ(最高30点)、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	26.1	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点～23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 教育研修会や学校訪問研修会、ビデオによる指導者研修等、教員の研修機会を多く実施したことにより、教員と英語指導助手による授業の質が高まり、教育効果が上がっています。また、指導主事による学校訪問を行い、校長・教頭・教務主任・英語主任との懇談から得た各校の課題の改善に努め、校内での英語教育研修体制の確立を支援しています。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 小学校英語活動で養ったコミュニケーション能力の素地を効果的に生かすために、小学校英語活動と中学校英語科の指導の連携を深めることが課題です。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 小学校英語活動と中学校英語科の指導の連携については、相互の指導内容・指導方法について理解を深めることが重要であるため、中学校区内の小・中学校間で相互に英語の授業参観を実施することとし、昨年度より参観回数を増やし相互の理解と情報収集の機会を図ります。また、中学校英語推進協議会を開催し、小学校英語活動からのよりよい連携について具体策を検討していきます。				

# 平成22年度 教育行政評価シート（自己評価） NO.13

事務事業名 (予算事業名)	中学生海外派遣交流事業	作成日	H23.8.15
		担当部名	教育委員会
		担当課名	鹿嶋っ子育成課

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2) 国際理解教育の推進
個別施策	② 異文化理解と交流活動の充実

## 2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 鹿嶋市の姉妹都市である韓国西帰浦市へ中学生を派遣し、また西帰浦市からも中学生を迎え、お互いにホームステイや学校訪問などを行なうことにより、同年代の中学生同士という親しみやすい入口から、外国という異文化を体験し、子ども達の国際理解を育てていきます。
------	--

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①西帰浦市への中学生派遣を実施する。 ②相互の中学生宅ホームステイ方式による交流の深化
--------	--

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。 対象 中学2年生 規模 23人
--------	---

予算科目コード	会計	01	款	10	項	03	目	02	事業名	中学生海外派遣交流事業							
全体計画										21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
										(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)		
投入コスト	事業経費	旅費								0	79	74	74	74	74		
		委託費（実行委員会へ）								0	1,840	2,201	2,201	2,201	2,201		
		個人負担金										805	840	840	840	840	
		新型インフルエンザ 中止															
													韓国	韓国	韓国	韓国	韓国
		合計【1】									0	2,724	3,115	3,115	3,115	3,115	
財源内訳	国庫支出金																
	地方債																
	その他(個人負担金)										805	840	840	840	840		
	一般財源								0	1,919	2,275	2,275	2,275	2,275	2,275		
従事職員数		正規職員							0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2		
		その他職員															

根拠法令	鹿嶋市中学生海外派遣交流事業実行委員会設置要綱
------	-------------------------

事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)		市民サービス		管理経費	
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	○	その他	
							平成	年度から	平成	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 平成21年度については、新型インフルエンザのまん延により、中止となりました。 平成20年度以前については、韓国西帰浦市に加えて、中国の塩城市、オーストラリアのカラウンドラ市にも中学生を派遣していました。 (中国・オーストラリアについては、鹿嶋市からの訪問のみでした。)
--------------------------	--

### 3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算 執行 の 視点  30%	【①コスト削減】 前回と比較してコストを削減したか？	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	派遣先を減らす以外には、派遣事前研修の内容や、派遣時の活動内容などの見直しによってコスト削減が可能と考えます。	A
	【②費用対効果】 予算額に対し、現地訪問以外の付加価値はあるか？	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	参加する中学生それぞれの国際意識の向上はもちろん、姉妹都市との交流の深化という計り知れない付加価値があります。	A
	【③計画性】 事業は計画通りに行われているか？	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%～90%未満 C：対計画実施率80%未満	事前研修の実施、旅行者との契約等について、適切に実施されています。	A
II 対象者の 視点  30%	【④顧客満足度】 参加した生徒・保護者は事業に満足しているか？	A：満足度80%以上 B：満足度60%から80% C：満足度60%未満	報告書作成時に、参加生徒の書いた感想文を見ると、事業の内容に好意的なものが多くありました。	B
	【⑤コスト】 参加生徒一人あたりにかけるコストは、前回と比較してどうか？	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%～10%未満 C：対昨年度比、安い	事業全体のコストを削減しているため、参加生徒一人あたりにかけるコストも前回と比べ安くなっています。	C
	【⑥時間】 参加生徒一人あたりにかける時間は、前回と比較してどうか？	A：対昨年度比増加率、10%以上 B：対昨年度比増加率、0%～10%未満 C：対昨年度比、削減	派遣期間は変更していませんが、事前研修の見直しを行ない、時間数は減っています。	B
III 事業実 施過 程の 視点  30%	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行ったか？	A：需用反映率 20%以上 B：需用反映率 0%～20%未満 C：需用の反映なし	姉妹都市間で、職員交換だけでなく市民レベルで交流をしたいという両市の意向が、事業開始のきっかけのひとつでした。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間は、前回からどのくらい変化したか？	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%～10%未満 C：対昨年度比、増加	事前研修の内容見直しを行ない、回数を減らしたことで時間短縮（内容向上）を行ないました。	B
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	報告書を作成して生徒の意見をまとめるとともに、事業実施についての反省等を行っています。	B
IV 職員 育成 の 視点  10%	【⑩業務改善】 事業を行うにあたり、業務の改善を行っているか？	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%～10%未満 C：業務改善なし	前回からの反省点を受け、訪問時の行動や受け入れ時の内容などに反映しています。	B
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	本事業を特にとりあげての研修は行っておらず、前担当者等からの引き継ぎ・相談等で対応しています。	C
	【⑫技能向上】 担当する職員の方は、事業実施で実務的な技能が向上したか？	A：対昨年度比、増 B：対昨年度比、微増 C：対昨年度比、増加なし	外国の市との連絡や、旅行者との日程調整、実行委員会での会議運営や生徒選抜など、特殊な実務経験をすることができます。	A

### 4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ（最高30点）、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	24.1	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点～23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本 評価 に 基 づ く 事 業 の 改 善 策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 海外に中学生と引率者あわせて30名程度を派遣する関係上、費用は大きくかかっている事業ではありますが、これからの社会を担う鹿嶋っ子たちが国際的に活躍していくための、その前段階として、もっとも近い外国の韓国を訪問し、また韓国の中学生を日本に迎えることで、異文化を実際に体験し、理解して興味を持ってもらうための意義ある事業と考えます。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 平成20年度以前は韓国のほかオーストラリア、中国にも中学生を派遣していた本事業ですが、平成21年度は病気のまん延により中止となってしまう、また市の財政状況も勘案して、平成22年度では派遣国を韓国の1か所のみとして事業を再開しました。今後は、参加生徒の人数を見直し、さらに費用を削減していくのか、また逆に、取りやめた派遣国を戻すことはあるかどうか、などが検討課題となっています。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 参加生徒の人数については、行き来する人数を合わせていることから、交流相手の西帰浦市との調整が必要となります。また予算への反映を考えると、毎年の反省点を次年度に反映するには、予算編成時期までに検討しておく必要があります。				